

「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」からの抜粋

農水省サイド

獣医療計画制度

平成 4 年に制定された獣医療法（法律第 46 号）において農林水産大臣が、獣医療を提供する体制の整備を図るための基本方針を獣医事審議会に諮った上で定めると共に、都道府県は・・・地域における適切な獣医療の提供の確保を図ることとされた。

平成 12 年 12 月に平成 22 年度を目標年度とする第 2 次基本方針が公表され、当該基本方針が終期を迎えることから見直しを行い、平成 32 年度までを目標とした新たな基本方針を定める必要がある。

獣医療を提供する体制の整備を計るための基本方針の策定について（検討状況）

第 7 回獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（資料 5-1 抜粋）

1. 獣医事審議会計画部会：平成 32 年度を目標年度とした獣医療の提供体制のあり方（基本方針）について 4 つの WG で検討開始
2. 産業動物分野 WG の主な論点
 - ① 学生に対する臨床実習の充実と修学資金制度の活用による産業動物獣医師の確保
 - ② 新規獣医師に対する卒後研修の充実による産業動物分野への定着
3. 小動物分野 WG の主な論点
 - ① 獣医療行為の明確化と大学における適切な臨床実習の実施（注：農水省から、文科省と大学において検討を要請して頂くような方向性が欲しい！）
 - ② 小動物獣医師の卒後研究の充実による臨床技術の高度化を質の確保
4. 公務員分野 WG の主な論点
 - ① 学生に対する体験実習の実施と修学資金制度の活用による公務員獣医師の確保
5. 民間・研究分野 WG の主な論点
 - ② 新たな研究開発推進のための産官学の連携強化と人材育成の強化

注：「臨床実習の充実」という表現の中に、「診療に参加しながら学ぶこと」が包含されていることが不可欠

文科省サイド

今後の獣医学教育の改善・充実方策について

意見のとりまとめ（骨子案）

（第 7 回獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議（資料 6 抜粋））

1. 獣医師を巡る状況
 - (1) 社会ニーズに対応した人材ニーズの高度化
 - (2) 国際的通用性を備えた人材のニーズの高まり
 - (3) 獣医師の職域の多様性と人材の職域偏在
2. 検討の経緯
 - (1) 我が国の獣医学教育を取り巻く環境の変化
 - (2) 社会ニーズに対応した獣医学教育を実現するためには教育内容の改善が必要との指摘
 - (3) 国際的通用性：欧州連合での獣医学教育の国際基準
 - (4) 国際的通用性を備えた質の高い教育が課題：質の保証の観点から医学・歯学・薬学などの医療系専門職の養成についてはモデルコアカリキュラムが作成され、これらを参考にした取り組みが求められる。
3. 獣医学教育の現状と課題
 - (1) 我が国の獣医学教育において共通的に必要とされる教育内容について検討。具体的には、導入教育・基礎獣医学分野・応用獣医学分野・臨床獣医学分野で分類し、社会ニーズの高度化・多様性・国際的通用性の確保に対応するため全ての大学において共通的に最低限実施する必要があると考えられる科目を設定し、その履修内容に

ついて整理。(注：モデルコアカリキュラムの検討)

- (2) 我が国の大学の現状を分析したところ、以下の課題が明確化された。
- ① 獣医師の職域や社会的役割、関連法規、獣医倫理を扱う導入教育の不整備
 - ② 実践的な教育内容の不足 (注：参加型実習まで念頭に置いているか?)
 - ③ 新たな分野への対応
 - ④ 大学間の教育内容のばらつき (注：各大学及び各教員の裁量では駄目！)

4. 基本的方向性

- (1) 獣医学教育において学生に身に付けさせるべき知識・能力の明確化が必要
- (2) 獣医学教育の改善・充実を図るため
 - ① 教育内容・方法
 - ② 教育研究体制
 - ③ 教育の質の保証
、の観点から改善の方向性を検討することが必要。

「獣医学教育において学生に身に付けさせるべき知識・技能」(案)

- (1) 大学における獣医学教育は、第一に、獣医師の任務の遂行に最低限共通的な知識・技能の育成に資する教育内容が求められる。
 - ① 獣医師として独立して飼育動物の診療や健康を維持・増進する職務に従事する際に求められる基礎的な知識・技能 (注：態度という記載がない！)
 - ② 動物及びそれらの生産物を介する人獣共通感染症等を未然に防止する公衆衛生上の職務の遂行の基盤となる基礎的な知識・技能
 - ③ 社会の要請に基づく獣医学に関連する分野の職務に必要な基礎的な知識・技能
- (2) 上記(1)の知識・技能に加え、専門分野・職域別に応じて、当該分野で求められる実践的資質能力の基本となる知識・技能の育成に資する教育も併せて行うことが求められる。(注：技能・態度教育、獣医倫理や安全の確保についての実質的な教育も含むと理解?)

5. 改善の方向性

(1) 教育内容・教育方法について

【現状と課題】

- ① 獣医師の職務や使命感・倫理観に関する教育など導入教育が不十分
- ② 問題解決能力など実践的な資質能力の育成に関する教育が不十分
- ③ 基礎分野と比較して、応用分野、臨床分野（産業動物診療や公衆衛生に関する教育内容を含む）の教育が不十分

【改善の方向性】(案)

- ① 獣医師の職域や社会的役割、関連法規、獣医倫理等を扱う導入教育の充実を促進
 - ・モデルコアカリキュラムを検討する取組を促進
- ② 基礎分野で学んだ理論を実践につなげる実習科目の充実を促進
 - ・「実務実習」を含めたモデルコアカリキュラムの検討する取組の促進
 - ・PBLなどの実践的教育法の開発などを推進
 - ・医学教育・歯学教育において行われている臨床実習の例も参考にしつつ、有資格者の指導・監督の下に実施されていることなど、実習段階で可能な獣医療行為についてのガイドライン等の作成や、公衆衛生関連施設における実習を行う際の明確化等について、関係省庁と協力して検討
- ③ 応用分野や臨床分野の教育を充実し、様々な職域に進む獣医学生の実践的な資質能力の育成を促進
 - ・基礎・応用・臨床分野のバランスに配慮しモデルコアカリキュラムを検討する取組の促進
 - ・獣医師の職務遂行上、最低限共通的に求められる基礎的な知識・技能の育成に加え、専門分野・職域別に求められる実践的な知識・技能の育成を高学年を対象に行う専修

コースの設定等を促進

(2) 教育研究体制について

【現状と課題】

- ① 大学の規模により教育内容、教育体制の充実度にばらつき
- ② 専門的な教員の不足や共通的なテキスト等の未整備等の理由から、特に新たな分野などについては、広範な知識・技能を高度な専門性を持って教授することが困難
- ③ 付属家畜病院の職員数・患畜数・動物種に大きなばらつきがあり、臨床実習を行う上で教育体制に課題があるなど、臨床教育の充実において課題

【改善の方向性】(案)

- ① 他学科等の学内資源の有効活用、保健所や農業共済などの学外関連機関との連携により、実務実習の場の充実や職員の確保などにより教育体制を充実
 - ・ 畜産学・水産学・医学などとの連携
 - ・ 公衆衛生関連施設における実習
 - ・ 学外の家畜診療施設及び公衆衛生に関する施設における実務実習の実施に関し、各大学における実習先機関との十分な連携体制の構築に向けて、必要な実習施設の確保や、産業動物や公衆衛生業務に従事した実務経験を有する教員の確保など各大学の条件整備を推進するための方策について検討
 - ・ 専任教員数の検討
- ② 獣医系大学全体として社会のニーズに対応し、複数の大学がそれぞれの比較的優位な教育資源を結集して連携を推進
 - ・ 教育課程の共同実施、施設の利用の促進
 - ・ 若手教員・研究者の育成の促進
- ③ 付属家畜病院における臨床実習や卒業後の臨床研修機能の充実のため、実習や研修プログラムの策定の促進や、必要な体制整備について検討
 - ・ 効果的な臨床実習の実施のためのプログラムやFD等の共同開発等の取組の促進
 - ・ 卒後臨床研修機能の充実：関係省庁と団体と連携し、体系化された研修プログラムの開発
 - ・ 臨床実習等の充実に対応した付属家畜病院の体制の充実についての検討

(3) 教育の質の保証について (注：社会に質を保証する方法論として、透明性の高い共用試験がベスト！)

【現状と課題】

- ① 大学によって獣医師として最低限共通的に必要とされる基本的な知識・技能を培う教育が十分に行われていない分野(内容)がある。
- ② 授業内容についての記載が具体性に欠けるなどシラバスの記載が不十分な大学が存在

【改善の方向性】(案)

- ① 大学・関係学協会が連携して、教育内容の平準化など獣医学教育の質の確保の取組を促進 (注：この方向性を共用試験システムの開発と共用試験導入の準備と捉えて良いか?)

【方策】案

モデルコアカリキュラムの策定、共通テキストの作成、FD等の取組

- ② 各大学における積極的な情報公開を推進するとともに、獣医学分野の質保証の在り方について具体的に検討 (注：獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議から獣医学教育の在り方に関する調査研究協力者会議へと変身できるか?)

【方策】案

- ・ 獣医学分野の第三者評価の実施：前提となる自己点検・評価、大学間相互評価の促進
- ・ 授業内容のシラバスの公開と教育状況の透明化の取組
- ・ 分野別第三者評価の実施

第三者評価：アクレディテーション・システム＝大学関係者による「ピア・レビュー」